



コザでお待ちしています。



コザのまちには現在約60ヶ国の外国人が居住し異文化を受け入れ共存しています。基地の門前町でもあるコザのチャンプルー文化の変遷をガイドと共にまち歩きを行いまちの歴史を通して、他人事から自分事へと意識を変えていききっかけをつくる事が可能です。

基地のまち、KOZAを歩く

あなたに伝えたい、コザまち物語

■お問い合わせ先

一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会

住所 904-0031 沖縄市上地 1-1-1 コザミュージックタウン 1F

Tel: 098-989-5566 Fax: 098-989-5567

Email: okinawa@koza.in HP: <http://www.kozanavi.jimdo.com/>

あなたに伝えたい、コザまち物語 基地のまちKOZAを歩く

このまちは、もはや地図にもないけれど、古い建物と看板が、街の歴史と人の生きざまをいくつもの物語に紡いで、今も伝えてくれます。地元ガイドがご案内する「コザまち物語」の主人公は、きっと。あなた……。



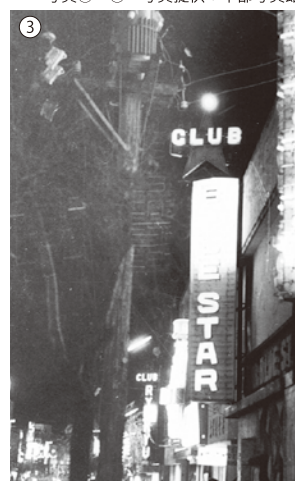
一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会

《まちの記憶1》

After 1945 基地がつくった街



写真①～③ 写真提供：中部写真館



1945年9月7日、悲惨を極めた沖縄戦の降伏調印式が、現嘉手納米空軍基地(旧越来村森根地区)で行われました。この日がコザの第一歩。米軍は、基地を抱えてしまった村をコザと名付けます。

コザには、音楽、ファッション、食など、ありとあらゆるアメリカ文化が兵士たちのドルとともに流入しました。同時に、沖縄本島はおろか離島や奄美の島々、また香港、台湾、インドなど世界各地から人が流入し、独特の文化圏を形成してゆきます。その結果コザは、「基地の街」の一言では語れない複雑な歴史を刻むことになりました。

《まちの記憶3》

地図から消えた街を見つけよう

1972年、沖縄は本土に復帰し日本となりました。同年コザ市は「国際文化観光都市」を宣言、その2年後に隣の美里村と合併して沖縄市となり、地名そのものが消えてしまいました。ですがコザは、完全に消えてしまったわけではありません。米軍基地がもたらす「負」とともにヒトの多様性と異質性を受け入れ、いままちの文化を生み出し続けているのです。コザは地域のアイデンティティそのものとなり、街の中で息づいています。それは、通り過ぎただけでは見つからない何かであり、コザンチュ(コザの人)と出会うことによって体感できる世界です。



ポイント1

ドルが使えるまち!?

沖縄市では食堂やベーカリー、てんぷら屋でもドルが使えます。ドルで買い物しながら街の人と交流し、基地から派生した「日本の中のアメリカ文化」を体験してみませんか。地元ガイドが案内するまち歩きプランです。ドルをお持ちの方はご持参ください。両替も可能です。



ポイント2

哀愁のコザ看板物語

サイン(看板)もまた、沖縄の変化やまちの歴史を証明しています。壊れかけた看板、かすれた文字の一つひとつにも異文化を受け入れてきたコザの変遷が見て取れます。コザでは、看板を通して当時の出来事や歴史を紐解くまち歩きを行っています。



サイン沖縄
代表 大城 貞夫さん
(スマイリー大城)

25歳から看板業に従事し、1985年に自社「サイン沖縄」を設立。沖縄市内を始め県内の看板や広告などを手がけている。沖縄独特の看板の手法や技術を身につけ現在は、後進の育成にも力を入れている。これまでの職歴を生かし、街なか案内ガイドを行い看板から知る街の歴史を伝えている。



《まちの記憶2》

1960~70年代チャンプルータウンコザ



アメリカは1950年～1953年の朝鮮動乱、1960年～1975年のベトナム戦争(内戦)に踏み込み、太平洋の要石と位置付けた沖縄から出撃していきます。米軍にとって沖縄は、アジア戦略上必須の軍事拠点として活用されました。

一方でコザは、空前の繁栄を迎えます。明日をも知れぬ兵士たちは、恐怖をごまかす手段として、大量のドルをばらまきました。当時は、1ドルあればバスでコザから那覇に行き、映画を見て沖縄そばを食べて帰ることが出来ました。1500ドルあれば家を買えた時代です。Aサインバーやレストランの中には、1日2000ドルを売り上げた店もザラにありました。皮肉なことに他国の戦争がコザに富をもたらし、兵士のニーズを通して多様な文化を生み出したのです。

胡屋十字路から嘉手納米空軍基地の第2ゲートに伸びるゲート通りは、基地の門前町として発展した歴史を持っています。コザでもっともアメリカ的な雰囲気を残しており、日本なのに日本ではないような錯覚を覚えることでしょう。コザらしさをもっとも体感できるスポットです。



コザから嘉手納基地を見る

嘉手納米空軍基地の全貌が見えるビュースポットが沖縄市立図書館建物の屋上です。そこから見えるものは、日本の中のアメリカです。隣接する嘉手納弾薬庫、そして沖縄市の市街地などを見学しながら、地元ガイドにコザならではのエピソードを教えてください、一層深く理解できるでしょう。



沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート

沖縄市は、基地から派生する様々なエネルギーと異文化と接しながら、極めて個性的な文化を創出してきました。ヒストリートは、沖縄市の戦後を系統的に学べる施設です。戦後の生活雑貨や写真、資料などが展示されており、コザの歩みが一目でわかるようになっています。基地の存在が市民の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、リアルな平和学習の場として活用されています。沖縄の戦後史を通して、民族と文化について考えてみませんか。2階は、数多くの資料を活用した企画展が常時開催されています。



ポイント3

ヒストリートで学ぶコザ

沖縄市の歴史と市民の暮らしを通してコザに出会うまち歩きです。ヒストリエットの市史編集担当者にお話を伺った後、地元ガイドの案内で、歴史を検証するまち歩きに出発します。コザを通して、戦後の沖縄を学びたい方におススメのメニューです。時間は調整できますので気軽にご相談ください。



まちは歴史博物館



多文化社会の中で暮らすコザンチュ(コザの人)がそれぞれに背負った歴史と経験を通して、基地が作ったまちコザの変遷を知ることができます。まち歩きと講話を組み合わせ、After1945のリアルな世界観に触れてみませんか。修学旅行にも対応しております。

KOZA 講話 まちあるきとともに暮らしのなかにあるKOZA を聞いてみませんか。歴史は人の数だけ存在するから、モノゴトを単純に決めちゃいけないと思うのがコザンチュです！



組み合わせて、より深い理解へ。

沖縄市のまち歩きと組み合わせて、講話を行う事も可能です。人数は10名~300名と幅広く行え、少人数であればディスカッション形式も可能です。所要時間は1時間から2時間程度。会場は沖縄市内となります。

《テーマ》 沖縄市と米軍基地、沖縄市・戦後復興と基地のまち、コザ暴動を考える 等



軍用地主って何だろう
くすぬち平和文化館 館長 真栄城 玄德さん

故郷は基地の中。村に帰りたく願った祖母の思いは叶えられず、知らずとも軍用地主となってしまった真栄城さんに、軍用地主について伺います。なお、沖縄県の軍用地主は、およそ3万人です。



元祖Aランチ店の歴史
元ニューヨークレストラン 徳富 清次さん

ニューヨーク帰りのシェフが、アメリカンスタイルを取り入れて当時のご馳走をワンプレートに提供したところ、沖縄中に広まりました。ABCでランク付けられたランチの誕生秘話に耳を傾けてみませんか。



1970年12月20日未明、コザ市(現沖縄市)で大勢の住民たちによってMPカー(憲兵車)を含む外国人車両82台が放火される事件が発生しました。事件の直接的な発端は米兵の起こした3件の交通事故です。

暴動というものの、略奪も、亡くなった人もいないことからコザ騒動とも呼ばれています。



暴徒と化した市民たちは外国人車両に放火しながらゲート通りを通過して第2ゲートに侵入し、米人学校、消防車などに放火し続けました。終息したのは午前7時頃です。争いごとを好まないと言われる沖縄人が、これほどの騒動を引き起こした裏には、25年間に及ぶ米軍統治による差別や人権侵害、相次ぐ事件事故が挙げられます。そしてコザ暴動のあと、米軍はコンディショングリーンを発令、民間地域の米軍人・軍属の立ち入りを規制したため、Aサイン店(米軍立ち入り許可店)は存亡の危機に立たされました。

ドル経済にリンクしたまちで発生したコザ暴動は、沖縄県始まって以来の直接的な抗議行動です。その誇りが強烈なアイデンティティとなり、地図から消えた街KOZAの物語として今も受け継がれています。



米軍に関わる事件

- 1953 米軍による土地収用令/島ぐるみ闘争
- 1955 由美子ちゃん事件(6歳女兒が米兵に暴行殺害される)
- 1959 宮森小学校ジェット機墜落(死者17人、負傷210人)
- 1968 嘉手納基地内でB52墜落、大爆発
- 1969 基地労働者の大量解雇/知花弾薬庫でサリン漏れ事故
- 1970 女子高生が米兵に襲われめった刺し/
米兵による糸満の主婦轢殺事件に無罪判決/
美里中で毒ガス即時全面撤去県民大会、
そして12月20日未明……

ポイント4

コザ暴動の地

沖縄市では、本土復帰前後の沖縄の状況を紹介しながら、コザ暴動の発生地点から、当時そのままにゲート通りへと、コザ暴動を追体験するまち歩きを行っています。案内役はコザ暴動を記録する会の共同世話人、古堅宗光さん。車が燃やされた状況や騒動が発生した背景を教えてくださいながらのリアルな街歩き通して、街に刻まれた歴史に耳を傾けてみませんか。



修学旅行など、参加人数が多い場合は、グループごとに地元ガイドがついてご案内いたします。街の歴史をテーマにしたクイズ形式のまち歩きゲームも人気です。どうぞ気軽にお問い合わせください。

コザ暴動を記録する会

共同世話人 **古堅 宗光**さん

街づくりと人材育成をテーマに活動するコザサポーターズクラブ共同世話人。自らの体験を後世に伝えようと、沖縄市市史編集室主催の「コザ暴動を語る会」のメインホストを務め、聞き取り調査に関わる。また若手アーティストの支援や、街づくりやコザ暴動に関する講演会を行うなど、精力的に活躍中。



コザまち歩き FAQ

- Q. 受け入れ可能人数は何名でしょうか。
A. 最少催行人数4名 最大受入可能人数200名
タクシー研修から学年全体の修学旅行の受入実績があります。200名以上に関しては、2団編成などにて対応しております。ご相談ください。
- Q. 催行日時を教えてください。
A. まち歩き案内スポットの歴史資料館が月曜日休館に伴い、火曜日～日曜日で催行しております。
9:30～夕暮れまでまち歩き可能。そのため、初日の体験として多くご利用いただいております。
- Q. 所要時間はどのくらいですか。
A. 90分～120分程度お時間をいただいております。ドル体験や講話など各追加オプションに応じて対応いたします。

- Q. 米軍基地内には入れますか。
A. 米軍基地内には入ることはできません。

- Q. バスの駐車はできますか。
A. コザミュージックタウン前にて乗降可能です。
バスの駐車場はありません。回送をお願いしております。

- Q. 服装などの指定はありますか。
A. 基本的にはございません。運動靴など歩きやすい靴を推奨しています。サンダルやヒールの高い靴は向きません。雨具の用意、日差し対策もしてください。

- Q. ガイドはどんな方ですか。
A. 当協会の観光養成ガイド講座を修了した方々です。普段は地域でお仕事をされている方や定年退職された方など様々です。ガイドには政治色の強い話はしないように徹底しており、あくまでも中立的な立場での話を心掛けております。